

	シリーズ名	卵巣類内膜癌における PI3K/mTOR 経路遺伝子の検討
	所属・役職・氏名	女性病態医学・講師・橋口 裕紀 (HASHIGUCHI, Yasunori)
<p><要旨></p> <p>卵巣癌及び子宮体癌の代表的な組織型として類内膜癌があり、ともに類似した病理所見を示す。しかし、子宮体部類内膜癌は予後良好であるのに対して、卵巣類内膜癌は予後不良とされる。われわれもこれまでに両腫瘍間においてその発生や抗癌剤耐性機序についての研究報告をしてきたが、その機序はほとんど解明されていない。</p> <p>本研究の目的は卵巣癌の類内膜腺癌にターゲットをしばり、PI3K/mTOR 経路の発現遺伝子 (PTEN、mTOR をはじめとする複数の遺伝子) と細胞周期異常 (p53 経路と RB 経路の異常) を検討することで、腫瘍の発生や抗癌剤耐性の機序を解析し、今後の新しい治療法の開発につなげることにある。</p> <p><研究シリーズ説明></p> <p>卵巣癌及び子宮体癌の代表的な組織型として類内膜癌があり、ともに類似した病理所見を示す。しかし、子宮体部類内膜癌は大部分が早期に発見され予後良好であるのに対して、卵巣類内膜癌は大部分が進行した状態で発見され、予後不良とされる。われわれもこれまでに両腫瘍間においてその発生や抗癌剤耐性機序についての研究報告をしてきたが、その機序はほとんど解明されていないのが現状である。</p> <p>一方、PI3K/mTOR 経路は様々な腫瘍において発癌浸潤に関与するとされている。腎癌においては、分子標的治療剤として mTOR 阻害剤の臨床試験が行われ、その結果、日常臨床でも使用されるようになってきている。子宮体癌においても PTEN や mTOR の異常が重要な役割を果たしていることが判明してきており、mTOR 阻害剤の臨床試験が報告されるような状況となってきた。</p> <p>また、近年、卵巣癌においては、組織型別に発癌機序が異なっていることが解明されてきており、治療法も個別化していこうという傾向にある。漿液性腺癌では p53 蛋白の機能異常、明細胞腺癌では PI3K/mTOR 経路の異常が報告されており、われわれも明細胞腺癌において PTEN/AKT 経路について研究報告してきた。今回の研究対象である類内膜腺癌でも PTEN の異常などが報告されているが、その報告は少なく、あまり解明されていないのが現状である。</p> <p>これらの背景により、今回、われわれは卵巣癌の類内膜腺癌における PI3K/mTOR 経路の異常について解析する。また、様々な腫瘍において、PI3K/mTOR 経路の異常と、細胞周期に関与する p53 経路と RB 経路の異常が必須であるとされており、これまでのわれわれの研究報告でも同様であるという点。さらに、PI3K/mTOR 経路の異常が、細胞周期異常と関与して発癌機序に関わっているとの報告も多いという点。以上の 2 点より、今回の研究では、細胞周期異常 (p53 経路と RB 経路の異常) についても検討を加える予定である。</p> <p>本研究の目的は卵巣癌の類内膜腺癌にターゲットをしばり、PI3K/mTOR 経路の発現遺伝子 (PTEN、mTOR をはじめとする複数の遺伝子) と細胞周期異常 (p53 経路と RB 経路の異常) を検討することで、腫瘍の発生や抗癌剤耐性の機序を解析し、今後の新しい治療法の開発につなげることにある。</p> <p><アピールポイント></p> <p>卵巣癌において日常臨床で使用できる分子標的治療剤は Bevacizumab のみである。本研究により、新しい知見が得られる可能性を秘めている。</p> <p><利用・用途・応用分野></p> <p>新規分子標的治療薬の開発へとつながる可能性</p> <p><知的財産権・論文・学会発表など> なし</p> <p><関連するURL> http://www.med.osaka-cu.ac.jp/obandg/</p> <p><他分野に求めるニーズ> なし</p>		
キーワード	卵巣癌、類内膜腺癌、PI3K/mTOR 経路	